

心理学グループ 教授 渡部 諭
研究テーマ：犯罪被害に遭いやすい高齢者の認知バイアスの研究ー 高齢者はなぜ犯罪に狙われやすいか？ ー 研究の特徴：高齢者の意思決定特性から、高齢者の認知特性と犯罪への遭遇しやすさとの関連性の研究をし、防止につなげます。
研究紹介：本研究の目的は、近年の高齢者の犯罪被害件数の増加に対して、認知心理学からのアプローチを提案するものです。特に、高齢者認知研究において明らかにされた高齢者の認知バイアスからの研究と提言をめざします。健常高齢者の認知機能に関する近年の研究成果は目覚しく、若年者と異なる高齢者の認知機能について多くのことが明らかになってきました。認知心理学では、人間が推論や意思決定を行なう際にその個人に特有のヒューリスティクスを用いると仮定するのが一般的です。ヒューリスティクスとは、個人に特有の物事の処理のし方のことで、その個人の考え方のクセやコツのことです。そして、このヒューリスティクスが若年者と高齢者とで異なることを見出したのが私の一連の研究です。具体的には、意思決定におけるフレーミング効果において、高齢者は若年者とは異なるヒューリスティクスを用いることを明らかにしました。すなわち、意思決定を行なう場面・文脈（＝フレーム）を定式化する際に、高齢者は若年者とは異なったフレームを用い、その結果意思決定の結果も異なることを明らかにしました。振り込め詐欺の被害者に高齢者が多いことの原因にもつながることであると思われます。
研究業績（2015 年度以降） ・査読付論文：10 件 ・査読無論文：8 件 ・学会報告等：10 件 ・競争的研究費：科研費 1 件（基盤 C）
その他 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）の戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域「高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発」プロジェクトを実施中。警察庁、警視庁、各県警との連携。